

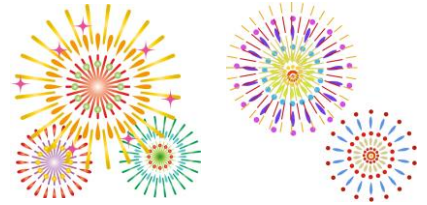
～ ヤマケイ通信 ～

- いつもお世話になり、誠にありがとうございます。
- 本格的な夏を迎え毎日暑い日が続いておりますが、皆様元気にお過ごしでしょうか。
- 日中は炎天下にいると倒れそうになりますね (+_+)
- 熱中症に十分気を付け、水分補給はこまめにしましょう！
- 今月号は日本の夏の風物詩「花火」についてです！(^^)！



🌸 日本の花火の歴史

- 夏の風物詩といえばスイカ、かき氷と色々ありますが、
- 花火もベスト3に入るくらい欠かせないものですよ。
- 花火大会は全国各地で行われ見に行かれる方も多いと思います。
- 目の前で打ち上がる花火はとても綺麗で圧倒されますね。
- 花火の歴史は古く、日本で最初に花火を見たと言われているのは徳川家康とされています。
- 家康が花火を見たのをきっかけに、諸大名の間で熱心に花火の研究が行われ次第に江戸の町民へ広がって
- いきます。そして花火の流行と発展に伴い、花火を打ち上げる事を生業とする花火師が登場します。
- 有名なのは『鍵屋』と『玉屋』花火を打ち上げた時に「かぎや〜」「たまや〜」とかけ声をかけますが、
- これは花火師の名前だったんですね。
- そして花火師の技術はどんどん改良されながら受け継がれていき、今では日本の花火は世界一と言われ
- 私たちを楽しませてくれているのです。



🌸 花火大会はなぜ夏に行われる？

- 「暑い！花火大会はもっと涼しい時期にして欲しい！」と思われた方も多いのではないのでしょうか。
- だいたい7月～8月に開催されるところが多い花火大会。
- 8月中旬はお盆ですが、実は花火大会はお盆と密接な関係があります。
- お盆は年に一度、祖先の霊が私たちのもとに帰ってくる期間とされています。
- 昔から死者の鎮魂の意味を込めて各地で大規模な花火の打ち上げが行われるようになり、これが花火大会
- の由来と言われています。しかし文明の近代化と軍国主義の中、花火大会は縮小されていきますが、
- 第二次世界大戦の中、空襲や戦争で散ってしまった死者の魂を鎮めるために花火大会は復活します。
- 花火は空気の澄み切った冬の方が綺麗に見えるのですが、全国各地でお盆に近い夏に花火大会が開催され
- るのは死者への鎮魂の祈りと願いがこもっているからなのです。
- 歴史や意味を知って鑑賞する花火の打ち上げは、また違う見え方になりますよね♪

ご購入ありがとうございました。次回号をおたのしみに (^^)



有限会社 山本圭商店



各種包装機用超硬カッター、セラミック加工、テフロン加工、各種表面処理加工、包装資材全般販売
〒537-0012 大阪市東成区大今里 3-11-24 TEL 06-6971-1347 FAX 06-6971-2201 www.tyoukou.jp